

# LGBT 悩み教えて

## 自助グループ 学校生活でアンケート実施



学校生活を送る性的少数者の実態についてアンケートを企画した「プライド岡山」のメンバー＝北区で

心と体の性が異なる人や同性愛者ら性的少数者（LGBT）の自助グループ「プライド岡山」が、LGBT当事者に学校生活での悩みなどを尋ねるアンケートを始めた。成人した当事者には学生時代、誰にも悩みを相談できずにつらい思いをした人が多く、「今も苦しんでいる学生がいるはず」と企画した。調査に協力する岡山市教委によると、当事者の経験を聞く本格的な調査は県内初とみられる。

### 生の声を教育関係者に

グループは2014年1月に発足した。当事者同士の交流などを目的に1〜2カ月に1回、岡山市内で「茶話会」などを開き、これ

までに10〜60代の当事者やその友人ら100人以上が参加した。その中で自立したの嫌」。グループの代表者を務めるフリーライター、ずっきーさん（仮

【久木田照子】

### 「心の傷」設問にも配慮

調査の実施は、当事者の切実な声から実現した。プライド岡山のメンバーは「思いを伝えるため、多くの当事者に回答に協力してもらいたい」と訴える。

名、51歳）らは、こうした声を学校関係者に理解してもらいたいと考えてようになった。アンケートは、インターネットを活用し、匿名で回答できる。学校生活の中で嫌と感じたことやその解消策のほか、性的な問題が理由で生きるのがつらいと感じたり、自らを傷つけた経験や身近な理解者の有無などを問う。学校在籍中の当事者だけでなく、既卒の人にも過去を振り返っ

て協力してもらう。今月31日まで回答を募る。結果は3月までに報告書にまとめ、県内全ての小・中学校や高校に届ける予定で、当事者の生の声を学校での対応や教員研修などに生かしてもらう。回答は同グループのホームページ（http://www.proudokayama.com）で、問い合わせは電子メール（proud.okayama@gmail.com）でプライド岡山へ。

つ悩みから解放されると、家族も金平さんの生き方を受け入れるようになったという。アンケートでは、代表のずっきーさんらと一緒に設問内容などを検討した。「心の傷」を尋ねるため、当事者を傷つけないよう表現に気を付けた。

メンバーの1人、岡山市の大学院生、金平くん（仮名、23歳）は女性として生まれたが、自分の体に違和感を覚えながら成長した。赤いランドセルを背負うのも、体育の授業で「女子扱い」されるのも嫌だった。思春期の体の変化で生理が始まると、「死にたい」とまで思った。その頃、ネットで性的少数者の存在を知っ

た。「この苦しさは病気や障害。病院に行けばすぐに治るはず」と思い、母に「自分は男」と打ち明け、受診を主張したが、母は驚くばかりだった。「生きる希望を失った」と当時を振り返る。

その後、スポン姿で通学できる高校に進学し、「男」として接してくれる友人もできた。「自分らしく過ごせる」と感じ、少しずつ悩みから解放されると、家族も金平さんの生き方を受け入れるようになったという。アンケートでは、代表のずっきーさんらと一緒に設問内容などを検討した。「心の傷」を尋ねるため、当事者を傷つけないよう表現に気を付けた。

医療法人 積仁会  
**佐藤内科**

岡山市北区中山下1の2の40  
(東中山下公園北)  
電話 231-5678 (代)